

ISSN 0912-778X

# 穂別町立博物館館報

第20号

平成14（2002）年度版

穂別町立博物館

## 目 次

●	沿	革	-----	( p . 1 )
●	施 設 の 概 要		-----	( p . 4 )
●	施 設 平 面 図		-----	( p . 4 )
●	展 示 活 動		-----	( p . 5 )
●	広 報 活 動		-----	( p . 6 )
●	普 及 教 育 活 動		-----	( p . 7 )
●	収 蔵 資 料 概 要		-----	( p . 10 )
●	資 料 収 集 保 存 活 動		-----	( p . 10 )
●	調 査 研 究 活 動		-----	( p . 12 )
●	運	営	-----	( p . 15 )

## ● 沿 革

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

### I 「建設の目的」と「展示更新」の基本的考え方

#### 〈穂別町郷土資料館建設の目的〉

(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

#### 〈展示更新の基本的考え方〉

(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。』

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』



## Ⅱ 沿革

\*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが、以下に従っている。

- ・「長頸竜」：動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式。
- ・「首長竜」：分類学上の名称としては適切ではないが、この場合「発掘調査団」の固有名称として使用。
- ・「クビナガリュウ」：正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが、通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから、この場合固有名称として使用。
- ・「ホベツアラキリュウ」：昭和52(1977)年7月5～8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称。

### 昭和50(1975)年

6月：穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏（穂別町在住）。

### 昭和51(1976)年

9月：佐藤昌人指導員（苫小牧青少年センター）・佐藤隆久教諭（穂別町立仁和小学校）、荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員（国立科学博物館）に鑑定依頼。

### 昭和52(1977)年

2月：長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認。  
7月5～8日：「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

### 昭和53(1978)年

5月：「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング（剖出）作業開始  
11月：穂別町立郷土資料館 開館（旧・穂別町立さくら保育所施設利用）

### 昭和54(1979)年

5月：長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定

### 昭和55(1980)年

10月16日：「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足

### 昭和56(1981)年

3月13日：施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更

### 昭和56(1981)年

7月～12月：博物館建設工事  
9月1日：鈴木 茂学芸員就任（～昭和60年3月31日）

### 昭和57(1982)年

1月16日：長頸竜復元作業開始  
3月～6月：博物館展示工事  
7月20日：博物館開館。一般公開開始（初代館長：今幸太郎教育長兼任）  
8月26日：「博物館協議会」発足  
11月1日：北海道博物館協会加入  
12月19日：長頸竜（ホベツアラキリュウ）復元骨格展示公開  
12月19日～1月23日：特別展（第1回）「よみがえるクビナガリュウ」

### 昭和58(1983)年

3月2日：博物館法による登録博物館となる（北博登第28号）  
3月28日：「博物館協力会」設立  
4月1日：日本博物館協会加入  
4月28日：菅原康次（第二代）館長就任  
7月22日～8月7日：収蔵資料展（第1回）「地図展」  
8月1日：全国科学博物館協議会加入  
11月1日～3日：収蔵資料展（第2回）「こけし展」

### 昭和59(1984)年

2月：村上 隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊  
3月27日：「穂別町立博物館研究報告」刊行開始  
6月14日：第二展示室（町立博物館保存庫）完成  
11月1日～4日：収蔵資料展（第3回）「古い写真・古い文書展」  
12月1日：桜庭勝美（第三代）館長就任

### 昭和60(1985)年

3月30日：「穂別町立博物館館報」刊行開始  
5月1日：地徳 力学芸員就任（～平成11年3月31日）  
11月1日～10日：特別展（第2回）「北海道一億年」

### 昭和61(1986)年

10月21日～11月9日：特別展（第3回）「穂別の自然」

### 昭和62(1987)年

1月1日：今幸太郎（第四代）館長就任（教育長兼任）  
7月28日～8月9日：特別展（第4回）「アンモナイトの系図」

昭和63(1988)年

- 7月17日：第三展示室（保存庫）完成
- 8月23日～9月4日：特別展（第5回）「穂別のカメ化石」
- 10月6日：今 幸太郎（第五代）館長就任（専任）

平成元(1989)年

- 6月30日：仲谷 英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表
- 7月18日～8月20日：特別展（第6回）「穂別のむかし=写真で見る穂別の歴史=」
- 9月29日～10月6日：学芸員、カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣

平成2(1990)年

- 7月23日：ドラムヘラー市長夫妻（カナダ、アルバータ州）来館
- 8月18日～9月16日：特別展（第7回）「戦争と穂別」
- 9月3日～5日：レイド、M. G. 氏（アルバータ州ティーレル古生物学博物館）来館
- 12月31日：野田藤雄（第六代）館長就任（教育長兼任）

平成3(1991)年

- 4月1日：佐藤 稔（第七代）館長就任
- 4月28日、29日：入館者10万人突破記念事業

平成4(1992)年

- 2月1日：展示更新工事開始
- 4月23日～25日：カーリー、P. J. 氏（アルバータ州ティーレル古生物学博物館）来館
- 4月29日：展示更新完了、一般公開再開

平成6(1994)年

- 4月1日：野田藤雄（第八代）館長就任（教育長兼任）
- 4月1日：川上 源太郎学芸員就任（～平成10年3月31日）

平成7(1995)年

- 7月15日～9月12日：学芸員、カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣、研修。
- 8月12日：かせき学習館完成

平成8(1996)年

- 7月27日～28日：'96北海道化石サミット開催（穂別町民センター）
- 10月6日：大江美津夫（第九代）館長就任

平成9(1997)年

- 7月6日、7月10日～8月31日：クビナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展（第8回特別展）

平成10(1998)年

- 4月1日：櫻井和彦学芸員就任（現任）
- 6月11日：星 功（第十代）館長就任
- 8月11日～8月31日：特別展（第9回）「地球物語り（地質学普及書の近代史）」

平成11(1999)年

- 1月1日：山田 正（第十一代）館長就任
- 5月29日：入館者30万人突破記念事業
- 8月1日～8月31日：特別展（第10回）「滄龍の泳いだ海-7000万年前の穂別-」
- 10月5日～11月28日：特別展（第11回）「穂別の自然」

平成12(2000)年

- 8月1日～8月31日、9月14日～10月1日：特別展（第12回）「穂別の石-川原の石から見た穂別」
- 9月14日～10月1日：日胆地区博物館等連絡協議会主催移動展「日高・胆振の博物館紹介」

平成13(2001)年

- 8月1日～8月25日：特別展（第13回）「穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-」

平成14(2002)年

- 4月28日～5月17日：特別展（第14回）「ツノのある奇妙なカメ～海の穂別からリクガメ化石の発見～」
- 7月1日～21日：特別展（第15回）「穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-」（再公開）
- 7月20日：開館20周年記念講演・討論会「化石の里（まち）の博物館」
- 7月27日～8月9日：博物館協力会企画展「穂別の化石」
- 8月31日～9月27日：特別展（第16回）「穂別のカメ化石-恐竜時代のウミガメとリクガメ」

平成15(2003)年

- 1月1日：清川博之（第十二代）館長就任（現任）



## ●施設の概要

### 【位 置】

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

### 【穂別町立博物館】

[構造規模]

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：1,100m<sup>2</sup>

常設展示室	372.88m <sup>2</sup>
特別展示室	99.08m <sup>2</sup>
収 蔵 庫	86.56m <sup>2</sup>
事 務 室	40.50m <sup>2</sup>
研 究 室	31.50m <sup>2</sup>
整 理 室	29.92m <sup>2</sup>
学 習 展 示 室	184.75m <sup>2</sup>
書 庫	35.05m <sup>2</sup>
共 用 部 門	219.76m <sup>2</sup>

[工 期]

昭和56年度～57年度

[総事業費]

3億7,276万5,000円

[展示更新]

平成3年度～平成4年度：博物館展示替え工事

平成5年度：マルチスライド、イメージソフト制作

[更新事業費]

平成3年度～4年度：99,910,000円（内消費税2,910,000円）

平成5年度：6,890,700円（内消費税 200,700円）

### 【かせき学習館】

[構造規模]

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：325.89m<sup>2</sup>

事 務 室	56.70m <sup>2</sup>
作 業 室	56.70m <sup>2</sup>
書 庫	14.04m <sup>2</sup>
レ プ リ カ 室	12.15m <sup>2</sup>
処 理 室	12.15m <sup>2</sup>
展 示 物 保 管 庫	162.00m <sup>2</sup>
共 用 部 門	12.15m <sup>2</sup>

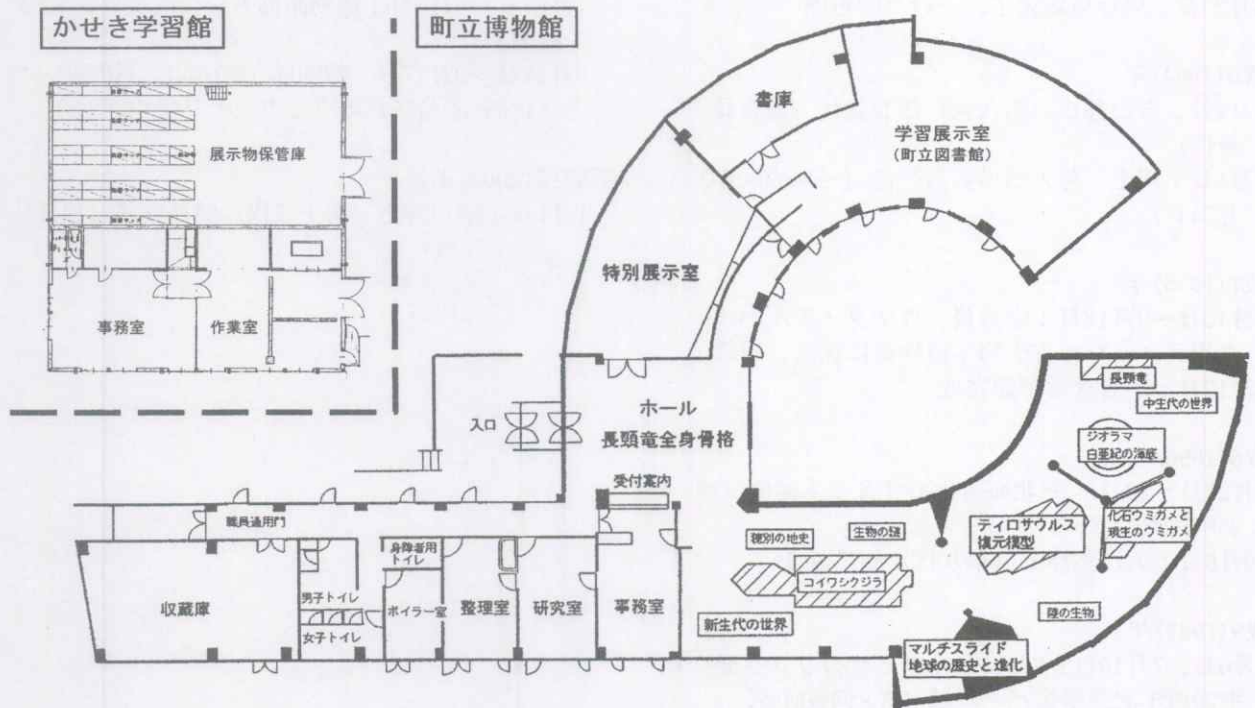
[工 期]

平成7年度

[総事業費]

5,709万2,900円（消費税込み）

## ●施設平面図



## ● 展示活動

### I 常設展示

穂別町内から産出した動物化石を中心に、地質・化石資料やその復元模型を展示している。

#### 【常設展示の変更】

平成14(2002)年5月31日：アンモナイト（HMG-932・933・934・1070・1071）を展示

平成14(2002)年5月31日：アノマロケリスのレプリカを実物化石（HMG-1056）に入れ換え

平成14(2002)年11月14-27日：コイワシクジラ全身骨格の脊椎骨の破損箇所を補修

平成14(2002)年3月28日：アンモナイト（2002-051）を展示

#### 【常設展示資料】

種別	分類		点数	計
化石	脊椎動物	魚類	7	242
		爬虫類（長頸竜10*・モササウルス8*・カメ6・他3）	27	
		哺乳類（クジラ8・デスモスチルス2・他9*）	19	
	その他動物	軟体動物（頭足類89・腹足類30・斧足類38・他4）	167	
		その他（甲殻類7・その他9）	16	
	植物	4		
生痕	2			
現生生物	脊椎動物	爬虫類（カメ）	3	11
		哺乳類（クジラ4・鳍脚類1）	5	
	その他動物	軟体動物（頭足類）1・甲殻類1	2	
	植物	1		
復元模型	脊椎動物	爬虫類（長頸竜1・モササウルス1・カメ1）	3	3
その他	岩石標本等		21	21
合計				277

\*：レプリカ含む

（2003年3月31日現在）

### II 特別展示

【ツノのある奇妙なカメ～海の穂別からリクガメ化石の発見～】平成14(2002)年4月28日～5月17日

新属新種として記載されたアノマロケリス（ホベツアベツノガメ）*Anomalochelys unglata* の実物化石を紹介。「論文に記載されたアンモナイト展」（研究報告で記載されたアンモナイトを紹介）を同時開催。

### III 年間入館者数

分類		平成10年度 (1998)	平成11年度 (1999)	平成12年度 (2000)	平成13年度 (2001)	平成14年度 (2002)
個人	一般	7,726	8,591	11,281	9,911	10,355
	学生	2,899	3,190	4,278	3,832	4,367
団体	一般	1,017	785	1,112	1,143	877
	学生	1,979	2,306	2,221	2,403	1,348
計		13,621	14,872	18,892	17,289	16,947

学生：小・中・高校生

（単位：人）

団体：10名以上

## ●広報活動

### 【ホッピーだより（博物館広報紙）】

- 209号<平成14(2002)年4月>:「穂別町立博物館20周年のお知らせ」
- 210号<平成14(2002)年5月>:「2002年特別展 ツノのある奇妙なカメ」
- 211号<平成14(2002)年6月>:「ホッピー探検隊2002」
- 212号<平成14(2002)年7月>:「開館20周年記念講演・討論会『化石の里(まち)の博物館』」
- 213号<平成14(2002)年8月>:「記念講演・討論会の実施報告」
- 214号<平成14(2002)年9月>:「2002年特別展 穂別のカメ化石～恐竜時代のウミガメとリクガメ～」
- 215号<平成14(2002)年10月>:「日本地質学会(報告)と研究者の来館」
- 216号<平成14(2002)年11月>:「化石クリーニングとレプリカづくりの紹介」
- 217号<平成14(2002)年12月>:「博物館20周年記念事業の報告」
- 218号<平成15(2003)年1月>:「干支の話-羊・未・ヒツジ-」
- 219号<平成15(2003)年2月>:「今が見ごろ! 木星と土星」
- 220号<平成15(2003)年3月>:「冬の星空を観察-冬の星座観察会-」

### 【博物館協会等機関紙】

- 北海道博物館教会「道博協ニュース」
- 第76号<平成14(2002)年10月>:日胆地区NEWS  
「開町90年・町制施行40年 穂別町立博物館20周年 記念講演・討論会『化石の里(まち)の博物館』」
- 日胆地区博物館等連絡協議会ニュース
- 第11号<平成14(2002)年5月>:「博物館開館20周年のお知らせ」(ホッピーだより No. 209)・「特別展の紹介」(ホベツアベツノガメ)
- 第12号<平成14(2002)年12月>:「博物館20周年記念事業 報告」(ホッピーだより No. 217より)

### 【新聞掲載】

- 北海道新聞生活欄「ネーチャー通信」
- No. 118<平成14(2002)年5月1日>:「ツノのある奇妙なカメ-海だった穂別に珍しい化石」



I 博物館事業（博物館の主催・共催事業）

※開館20周年記念事業については「運営」を参照

平成14(2002)年4月20日

「土よう日の集い」：カミネッコンでドングリ栽培（町教委生涯学習課主催）（小24、大2）

平成14(2002)年5月18日

「ホッピー探検隊2002」：自然観察と化石採集（小26、大7）；「国際博物館の日」関連事業（「運営」を参照）

平成14(2002)年8月4日

ほべつの森の観察会「夏の虫」：ほべつ道民の森で昆虫観察（小13、大2）

平成14(2002)年9月29日

ほべつの森の観察会「きのこウォッチング」：ほべつ道民の森でキノコ観察（小2、大9）

平成15(2003)年2月21日

「冬の星座観察会」：冬の星や星座の観察（小10、大7）

II 町内団体の利用と対応

対応したものは「 」で内容を示してある。  
特に表記のないものは案内の伴わない展示見学。

【町内学校・教育関係団体】

平成14(2002)年5月：

12日：穂星寮町内バス見学会（小25、大3）

16日：さくら保育園（園児24、大1）

21日：穂別高校「展示見学」（小24、大2；テーマ学習）

31日：転入教職員町内研修「展示見学」（大25）

平成14(2002)年6月：

4日：穂別中学校（小5、大1）

5日：穂別中学校（小2、大1）

18日：仁和中学校3・4年「展示見学」（小14、大1；総合学習）

21日：穂別中学校（小1、大1）

27日：さくら保育園（園児13、大1）

平成14(2002)年7月：

2日：富内保育所（園児6、大2）

3日：稲里小学校（小6、大5）

8日：さくら保育園（園児10、大1）

9日：富内小学校3・4年「質問・展示見学」（小2、大1；社会科）

20日：博物館開館20周年記念特別観覧（大6）

25日：さくら保育園（園児15、大1）

平成14(2002)年8月：

21日：穂別手をつなぐ親の会（小4、大10）

平成14(2002)年9月：

20日：穂別高校1年「化石クリーニング」

（小20、大2；テーマ学習、穂別高校で実施）

平成14(2002)年10月：

5日：『化石クリーニング・レプリカづくり』参加者（小10、大5）

10日：穂別小学校（小24、大2）

18日：さくら保育園（園児9、大1）

22日：穂別高校1年「化石のレプリカ作成・展示見学」（小19、大1；テーマ学習）

平成14(2002)年11月：

7日：富内小学校5・6年「質問・展示見学」（小6、大2；理科）

14日：穂別小学校2年「質問・展示見学」（小8、大1；生活科）

15日：穂別中学校1年「質問・展示見学」（小34、大3；総合の時間）

22日：穂別中学校（小1、大1）

30日：穂別高校1年「質問」（小1；テーマ学習）

平成14(2002)年12月：

8日：穂別高校バス見学会（小20、大2）

18日：穂別小学校2年「質問・展示見学」（小10、大1；生活科）

27日：さくら保育園（園児9、大1）

平成15(2003)年3月：

14日：穂別高校1年「質問・展示見学」（小3；テーマ学習）

### 【町内各種団体】

平成14(2002)年5月：

17日：穂別町役場新規採用職員研修（大5）

平成14(2002)年6月：

13日：農業委員会農業就業体験者受入（大2）

16日：農業委員会農業就業体験者受入（大2）

平成14(2002)年7月：

4日：農業委員会農業就業体験者受入（大2）

18日：農業委員会農業就業体験者受入（大2）

平成14(2002)年9月：

6日：農業委員会農業就業体験者受入（大3）

平成15(2003)年3月：

20日：穂別地球体験館サイエンスガイド新人研修「展示見学」（大3）

### Ⅲ 町外団体の利用と対応

対応したものは「」で内容を示してある。  
特に表記のないものは案内の伴わない展示見学。

#### 【町外学校・教育関係団体】

平成14(2002)年4月：

28日：追分町法養寺子供会（小40、大2）

平成14(2002)年5月：

3日：千歳化石会（大10）

11日：登別市立鷺別中学校（大4；下見）

17日：苫小牧市永光学園（大28）

21日：恵庭市立柏陽中学校（大6；下見）

23日：サイエンス倶楽部（大2；下見）

29日：登別市立鷺別中学校（小119、大7）

平成14(2002)年6月：

18日：札幌市立栄南小学校（小65、大1）

21日：北海道大学理学研究科地学教室「展示見学」（大24；野外巡検）

22日：札幌北郷瑞穂町内会青少年部（大3；下見）

26日：白老町小中学校教職員等研修（大26）

29日：教職員互助会南石狩支部（大40）

平成14(2002)年7月：

4日：胆振管内高等学校初任者研修地域研修「展示見学」（大4）

4日：札幌市立本町小学校（小94、大7）

4日：恵庭市立柏陽中学校（小109、大7）

11日：札幌科学技術専門学校（大13）

11日：北海道応用地学研究会（大19）

21日：新冠町郷土資料館（大1；下見）

23日：平取町すずらの会（大26）

31日：苫小牧市立明野小学校（大3；下見）

31日：札幌未来の会（小40、大6）

31日：札幌北郷瑞穂町内会青少年部（小50、大7）

平成14(2002)年8月：

2日：岩見沢花と緑の少年団（小19、大11）

3日：札幌ホワイトベアーズ野球少年団（小21、大1）

7日：門別町緑ヶ丘季節保育所（園児2、大2）

8日：新冠町郷土資料館体験クラブ「展示見学」（小12、大2）

26日：千歳市立向陽台小学校（小64、大3）

28日：夕張市滝ノ上保育園（園児7、大11）

30日：日高管内障害児教育研究会（小35、大32）

30日：新冠町立東川小学校（小6、大2）

平成14(2002)年9月：

- 1日：札幌市青少年育成委員会（大4；下見）
- 1日：釧路考古学研究会（大12）
- 6日：日高町立日高小学校（小19, 大3）
- 15日：試衛館（小42, 大23）
- 22日：札幌市立羊ヶ丘中学校柔道部（小23, 大3）
- 26日：南富良野町立幾寅小学校（小49, 大3）
- 27日：長沼町教育委員会（大21）

平成14(2002)年10月：

- 5日：東海大学坂田教授他（大4）
- 12日：札幌市宮ノ丘幼稚園卒業生の会（小42, 大7）
- 20日：札幌栄西地区青少年育成委員会（小156, 大17）

平成14(2002)年11月：

- 4日：鶴川町立宮戸小学校（大2；下見）
- 7日：富川ひばり幼稚園（園児51, 大3）
- 19日：富川ひばり幼稚園（園児35, 大3）
- 21日：富川ひばり幼稚園（園児62, 大3）
- 28日：鶴川町立宮戸小学校（小18, 大3）

平成14(2002)年12月：

- 6日：白老高等学校「質問対応」（小1）

### 【町外各種団体】

平成14(2002)年4月：

- 26日：胆振支庁振興課長他（大8）

平成14(2002)年6月：

- 8日：留寿都消防団（大7）
- 9日：中央バスガイド（大1）
- 13日：国土交通省防災課長他（大5）
- 26日：清里町議会（大7）
- 30日：北長沼区長会（大10）

平成14(2002)年7月：

- 11日：応用地質研究会研修会「展示見学」（大19）
- 19日：胆振家畜保健所（大2）

平成14(2002)年8月：

- 1日：苫小牧地方納税貯蓄組合連合会視察（大40）
- 1日：札幌ルーテル協会（小35, 大10）
- 5日：地学団体研究会 巡検「展示見学」（大31）
- 8日：ハロー栗山（大10）
- 20日：胆振支庁農務課（大3）
- 28日：旭川市赤十字奉仕団（大34）

平成14(2002)年9月：

- 12日：奈井江納税貯蓄組合連合会（大11）

平成14(2002)年10月：

- 1日：静内町議会（大11）
- 2日：札幌ロイヤルホテル（大11）
- 4日：HBトラベルバス運転手・ガイド（大4；下見）
- 6日：協葉会（大23）
- 19日：千歳若寿会（大26）
- 24日：北都明生会（大31）

平成14(2002)年11月：

- 1日：小樽ろうあ協会（大19）

平成15(2003)年3月：

- 25日：胆振家畜保健所（大2）



●**収蔵資料概要 (登録資料)**

【自然史系登録資料 (HMG)】 1,070点

地質・化石資料

【自然系登録資料 (HMB)】 78点

現生動植物資料

【人文系登録資料 (HMC)】 3,727点

民俗・歴史資料

(2003. 3. 31. 現在)

●**資料収集保存活動**

I 寄 贈

【自然史系資料】 36件

受入番号	寄贈資料	点数	寄贈者名
2002-006	巻貝化石	1	千歳化石会
2002-007	アンモナイト	2	笠巻 袈裟男
2002-012	化石含有ノジュール	1	狐塚 守
2002-014	アンモナイト他	2	千歳化石会
2002-017	イノセラムス	1	笠巻 袈裟男
2002-018	アンモナイト他	2	笠巻 袈裟男
2002-020	亀甲石	1	小林 繁
2002-021	貝化石含有岩塊	1	佐藤 稔
2002-022	アンモナイト	1	阿部 利春
2002-024	アンモナイト	1	阿部 利春
2002-025	二枚貝化石含有岩塊	1	阿部 利春
2002-026	アンモナイト	1	阿部 利春
2002-027	アンモナイト他	3	阿部 利春
2002-028	アンモナイト	1	阿部 利春
2002-029	アンモナイト	1	阿部 利春
2002-030	クジラ椎骨化石	1	小林 数美
2002-032	アンモナイト他	5	笠巻 袈裟男
2002-033	アンモナイト	1	千歳化石会
2002-034	アンモナイト他	11	千歳化石会
2002-038	アンモナイト	1	高橋 博志
2002-039	イノセラムス他	4	阿部 利春
2002-040	アンモナイト	1	阿部 利春
2002-042	アンモナイト	1	笠巻 袈裟男
2002-050	脊椎動物化石 (カメ?)	1	堀田 良幸
2002-051	アンモナイト	1	山越組 (株)
2002-052	脊椎動物化石 (カメ)	1	堀田 良幸
2002-053	脊椎動物化石 (長頸竜?)	1	堀田 良幸
2002-054	脊椎動物化石	1	堀田 良幸
2002-055	アンモナイト他	8	阿部 利春
2002-056	脊椎動物化石	1	堀田 良幸
2002-058	アンモナイト	1	小林 数美
2002-061	卵化石 (カメ)	1	長岡 静男
2002-062	化石含有ノジュール	4	笠巻 袈裟男
2002-064	二枚貝等	3	千歳化石会
2002-065	アンモナイト	1	千歳化石会
2002-066	植物化石 (ヘゴ科)	1	岩田 正敏

【自然系資料】 10件

受入番号	寄贈資料	点数
2002-003	現生動物標本 (鳥類)	1
2002-019	現生動物標本 (哺乳類)	1
2002-023	現生動物標本 (哺乳類)	1
2002-037	現生動物標本 (鳥類)	1
2002-041	現生動物標本 (鳥類)	1
2002-043	現生動物標本 (鳥類)	1
2002-049	現生動物標本 (鳥類)	1
2002-059	現生動物標本 (昆虫)	1
2002-060	現生動物標本 (鳥類)	1
2002-063	現生動物標本 (哺乳類)	1

【人文系資料】 0件

II 採 集

【自然史系資料】 13件

受入番号	資料名	点数
2002-008	イノセラムス	1
2002-009	ウニ化石他	1
2002-013	亀甲石	1
2002-015	アンモナイト他	9
2002-016	アンモナイト	1
2002-031	アンモナイト他	1
2002-035	アンモナイト他	7
2002-036	アンモナイト他	6
2002-045	アンモナイト他	4
2002-046	貝化石他	3
2002-047	アンモナイト他	5
2002-048	二枚貝化石他	1
2002-057	イノセラムス (印象化石)	1

【自然系資料】 2件

受入番号	資料名	点数
2002-044	現生動物標本 (鳥類)	1
2002-049	現生動物標本 (鳥類)	1

【人文系資料】 0件

### Ⅲ 野外調査活動

#### 【現地調査】 21回

4月：5日、7日、11日、12日、18日、24日、29日

5月：3日、14日、18日、22日

6月：28日、30日

7月：25日

9月：13日、14日、18日

10月：11日、17日、18日

12月：1日

資料収集14回、普及事業事前調査5回、  
その他調査2回

### Ⅳ 新規登録資料

#### 【自然史系資料 (HMG)】 1件

登録番号	資料名	受入番号
HMG-1072	卵化石 (カメ)	2002-061

### Ⅴ 資料の貸出

平成8(1996)年5月11日～平成15(2003)年3月31日

ウミガメ化石 (3点)：帝京平成大学 平山 廉  
博士

平成8(1996)年8月1日～平成15(2003)年3月31日

ウミガメ化石 (5点)：帝京平成大学 平山 廉  
博士

平成9(1997)年4月1日～平成15(2003)年3月31日

アンモナイト・イノセラムス (2点)：穂別地球  
体験館

平成9(1997)年4月1日～平成15(2003)年3月31日

自然系資料 (剥製、20点)：穂別町立穂別小学校

平成9(1997)年6月27日～平成15(2003)年3月31日

アンモナイト化石 (2点)：工業技術院地質調査  
所地質標本館 利光誠一博士

平成14(2002)年5月1日～平成15(2003)年3月31日

骨化石ノジュール (1点)：千歳化石会

平成14(2002)年6月1日～平成14(2002)年12月26日

ホベツモササウルス右前肢 (レプリカ)、ホベツ  
アラキリュウ全身復元骨格写真、ティロサウルス  
復元模型写真、メソダーモケリス全身復元骨格写  
真 (4点)：光記念館

平成14(2002)年6月23日～平成14(2002)年12月15日

アンモナイト (7点)：千歳サケのふるさと館

平成15(2003)年2月7日～平成15(2003)年3月7日

生活関連写真 (9点)：穂別町役場政策調整課



## I 脊椎動物化石の研究

### 【総論】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告[1]、47-52。

地徳 力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演:

[1990] 穂別町立博物館研究報告[6]、37-35。

[1993] 日本地質学会第100年学術大会(東京)

夜間小集会口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)

一般発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)

夜間小集会口頭発表

### 【デスモスチルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告[1]、11-23。

[1984] 地学団体研究会専報[28]、51-61。(松

井 愈・山口昇一 共著)

[1985] 穂別町立博物館研究報告[2]、51-62。

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 地団研専報[28]、63-68。

### 【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

一島啓人(オタゴ大学大学院)氏に研究委託

公表論文・講演:

[1992] 穂別町立博物館研究報告[9]、37-44。

[1994] The Island Arc[3]、473-485。

[1994] The island Arc[3]、486-492。

### 【ウミガメ】

平山 廉(帝京平成大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告[2]、17-30。

(鈴木 茂 共著)

[1992] 穂別町立博物館研究報告[8]、17-57。

[1992] 日本地質学会第99年学術大会(熊本)口

頭発表

[1994] 地学団体研究会専報[43]、17-24。(地  
徳 力 共著)

[1994] The Island Arc[43]、270-284。

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)

口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)

夜間小集会口頭発表

[1995] 日本地質学会第102年学術大会(広島)

口頭発表

[1996] 日本古生物学会報告・紀事[184]、

597-622。(地徳 力 共著)

### 【リクガメ】

平山 廉(帝京平成大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1998] 穂別町立博物館研究報告[14]、1-6。

(紀藤典夫・川上源太郎 共著)

[1998] 日本古生物学会例会(札幌)口頭発表

[2001] Russian Journal of Herpetology[8]、

127-138。(櫻井和彦・地徳 力・川上 源

太郎・紀藤典夫 共著)

### 【長頸竜】

仲谷英夫(香川大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1981] 日本地質学会第88年学術大会(東京)口

頭発表

[1982] 日本地質学会第89年学術大会(新潟)口

頭発表

[1982] 動物と自然、[12]、11-16。

[1984] 穂別町立博物館研究報告[1]、37-40。

[1985] 穂別町立博物館研究報告[2]、43-49。

[1989] 穂別町立博物館研究報告[5]、43-48。

[1989] 日本古生物学会報告・紀事[154]、

96-116。

### 【モササウルス】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 穂別町立博物館元学芸員)氏が研究

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告[2]、31-42。

[1985] 地学団体研究会専報[30]、45-66。

地徳 力(穂別町立博物館元学芸員)が別資料の研究  
継続



公表論文・講演：

[1987] 日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭発表

[1990] 日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表

[1990] 日本地質学会北海道支部報[1]、45-46。

[1991] 穂別町立博物館研究報告[7]、9-14。(紀藤典夫 共著)

[1994] 穂別町立博物館研究報告[10]、39-54。

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)が別資料の研究継続

公表論文・講演：

[1999] 日本地質学会北海道支部1998年度総会・例会(札幌)口頭発表

[1999] 穂別町立博物館研究報告[15]、53-66。(地徳力・渋谷直憲 共著)

[1999] 日本地質学会第106年年会(名古屋)口頭発表

## 【サメ】

久家直之(ジオサイエンス株式会社)に研究委託

公表論文・講演：

[1985] 穂別町立博物館研究報告[1]、33-36。

## 【翼竜】(遠別町産)

地徳力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1994] 日本地質学会北海道支部総会講演

[1996] 穂別町立博物館研究報告[12]、17-22。

## II その他の研究

### 【穂別の地質】

川上源太郎(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1995] 穂別町立博物館研究報告[11]、17-28。

[1997] 穂別町立博物館研究報告[13]、27-42。

### 【理科教育】

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)・地徳力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1998] 日本地質学会第105年年会(松本)口頭発表

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演：

[2000] 日本地質学会第107年年会(島根)ポスター発表(共同発表)

[2001] 日本地質学会北海道支部2000年度総会・例会(札幌)口頭発表

[2002] 日本地質学会第109年年会(新潟)ポスター発表

[2003] 穂別町立博物館研究報告[18]、1-20。

[2003] 穂別町立博物館研究報告[18]、21-32。(共著)

### 【博物館活動】

地徳力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1989] 穂別町立博物館研究報告[5]、33-42。

[1995] 穂別町立博物館研究報告[11]、29-36。

[1995] 穂別町立博物館研究報告[11]、37-46。

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演：

[2000] 穂別町立博物館研究報告[16]、9-28。

[2000] 穂別町立博物館研究報告[16]、29-40。

## III 刊行物

### 【穂別町立博物館研究報告】

第18号、32頁：平成15(2003)年3月30日発行

<掲載論文>

櫻井和彦：穂別町立博物館における地域素材の活用例-「富内イギリス海岸」, 「穂別の川原の石」, 「ホッピー探検隊」-, p. 1-20.

櫻井和彦・伊藤あゆ子・高橋義道：「ほべつ道民の森」で実施した自然観察会, p. 21-32.

### 【穂別町立博物館館報】

第19号、16頁：平成15(2003)年3月発行

#### IV 学会・大会・研修会等への参加

##### 【学会・研修会等】

[日本地質学会]

平成14(2002)年9月13日～17日：

日本地質学会第109年年会・学術大会（新潟市）  
：「川原の石と、穂別の今・昔」（「地学教育・地学史」，ポスター発表）

##### 【博物館協会等の大会・研修会等】

[北海道博物館協会]

平成14(2002)年6月6日～7日：

北海道博物館協会学芸職員部会 総会・研修会（利尻町）：欠席

平成14(2002)年7月11日～12日：

北海道博物館協会 大会（札幌市）

平成14(2002)年10月24日～25日：

ミュージアム・マネージメント研修会（富良野市）

[日胆地区博物館等連絡協議会]

平成14(2002)年6月18日：

日胆博協 総会（浦河町）

平成14(2002)年11月22日：

日胆博協 博物館職員研修（ウトナイ湖）

平成15(2003)年3月25日：

日胆博協 役員会・館長等会議（苫小牧市）

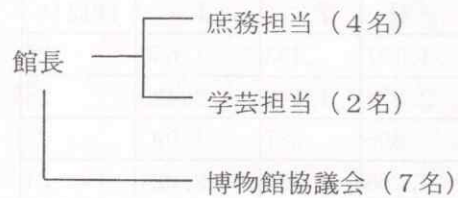
●運 営

I 行事等

- 平成14(2002)年4月：  
 28日-5月17日：特別展「ツノのある奇妙なカメ～海の穂別からリクガメ化石の発見～」
- 平成14(2002)年5月：  
 18日：国際博物館の日  
 (「国際博物館の日」の趣旨に賛同し、当日を町民無料入館日とし、普及事業「ホッピー探検隊2002」をこの日に合わせて実施した。)  
 18日：穂別町立博物館協力会 役員会  
 31日：穂別町立博物館協力会 総会
- 平成14(2002)年6月：  
 24日：展示室マルチスライド オーバーホール
- 平成14(2002)年8月：  
 7日：かせき学習館収蔵庫 燻蒸
- 平成14(2002)年9月：  
 27日：平成14年度第1回博物館協議会
- 平成14(2002)年10月：  
 26-27日：穂別町立博物館協力会 研修会
- 平成15(2003)年2月：  
 28日：展示室大掃除
- <博物館開館20周年記念事業>  
 平成14年(2002)年は博物館の開館20周年にあたることから、記念事業を実施した。この事業は、穂別町の開町90年・町制施行40年の記念事業としての意味合いも有する。
- 平成14(2002)年：  
 7月1日-21日：特別展「穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-」(1,158人)  
 7月20日：開館20周年記念講演会・討論会「化石の里(まち)の博物館」, 記念講演会講師紹介パネル展(大72人)  
 7月27日-8月9日：博物館協力会企画展「穂別の化石」(2,084人)  
 8月31日-9月27日：特別展「穂別のカメ化石-恐竜時代のウミガメとリクガメ」(1,046人)  
 10月5日：千歳化石会・博物館共催事業「化石クリーニングとレプリカづくり」(小25、大6)

※特別展・企画展の見学者数は、開催期間中の入館者数。

II 組 織



博物館協議会委員(平成15(2003)年3月31日現在)

- 会 長 北 倉 了 一  
 副会長 村 上 隆  
 委 員 小石川 武 美  
 委 員 荒 木 新太郎  
 委 員 大久保 玲 子  
 委 員 内 海 由起江  
 委 員 窪 田 敬 一

(任期：平成15(2003)年7月31日まで)

職員名簿(平成15(2003)年3月31日現在)

- 館 長 清 川 博 之  
 <管理担当職員>  
 主 幹 中 井 学  
 臨時職員(受付) 芥 川 紀 子  
 臨時職員(受付) 深 谷 文 子  
 臨時職員(清掃) 多 村 こゆる  
 <学芸担当職員>  
 学芸員 櫻 井 和 彦  
 臨時職員(補助員) 高 橋 義 道



### Ⅲ 利用状況

#### 【常設展示観覧者】

平成14(2002)年4月～平成15(2003)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	1,157	493	1,650	26
5	2,274	1,146	3,420	25
6	806	287	1,093	25
7	1,268	756	2,024	31
8	3,135	1,722	4,857	31
9	1,056	490	1,546	23
10	896	465	1,361	25
11	330	190	520	24
12	68	53	121	24
1	33	27	60	20
2	34	16	50	22
3	175	70	245	25
計	11,232	5,715	16,947	301

(単位：人・日)

#### 【博物館特定入館日】

##### <国際博物館の日>

国際博物館会議（イコム、ICOM）のモスクワ大会（1977年）にて制定され、日本では平成14年度から日本博物館協会とイコム日本委員会が協力して記念事業が展開されることとなった「国際博物館の日」（5月18日）の趣旨に賛同し、当日を町民無料入館の日とした。

##### <博物館開館記念日関連事業>

7月20日の開館記念日に関連して、平成14(2002)年7月20日(土)～7月26日(金)を町民無料観覧の日とした。

[博物館特定入館日に伴う町民無料入館]

実施日	行事名	一般	学生	計
5.18	国際博物館の日	11	11	22
7.20～26	博物館開館記念日 (7日間)	16	4	20
9.15	敬老の日	8	2	10
11.3	文化の日	6	12	18
11.23	勤労感謝の日	11	3	14
'03.1.13	成人の日	5	5	10
計	延べ12日	57	37	94

学生：小・中・高校生 (単位：人)

#### 【学校週五日制関連事業】

##### <町内児童生徒に対する入館料減免>

学校完全週五日制及び「総合学習」の導入に合わせ、穂別町内児童生徒並びに引率者については無料観覧とした。(学芸対応分を除く)

[平成14年度 町内児童生徒の無料入館]

区分	児童生徒	引率	計
穂別小学校	133	7	140
富内小学校	2	0	2
仁和小学校	15	2	17
和泉小学校	5	2	7
稲里小学校	0	0	0
穂別中学校	36	3	39
仁和中学校	0	0	0
富内中学校	1	0	1
穂別高校	12	1	13
計	204	15	219

(のべ62日、単位：人)

### Ⅳ 歳入

区分	有料入館者数	使用料	
一般	個人	4,699	1,409,700
	団体	550	110,000
	割引	5,471	1,000,500
学生	個人	1,768	176,800
	団体	1,134	56,700
	割引	2,323	96,900
使用料計	15,945	2,850,600	
諸収入	物品販売代	23,100	
	私用電話料	1,647	
合計		2,875,347	

(単位：人・円)

### Ⅴ 歳出

費目	決算額
博物館施設管理経費	14,480,803
博物館協議会経費	42,160
博物館普及員経費	3,793,784
博物館協力団体補助金	52,000
博物館資料収集及び調査研究事業	1,103,413
博物館施設改修事業	1,608,621
博物館費合計	21,080,781

(単位：円)

## VI 利用案内

### 【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

### 【休館日】

- ・毎週月曜日。
  - ・国民の祝日の翌日。ただし、その翌日が土曜日、日曜日及び月曜日にあたる場合は火曜日。
  - ・館内整理日。
  - ・12月31日～1月5日。
- \*ただし、7、8月は休まず開館。

### 【観覧料】

	一般	*学生
個人	300円	100円
**団体	200円	50円
***割引	100円	無料

注：未就学児童は無料（要大人の付添い）

\* 学生：小・中学生・高校生

\*\* 団体：10人以上

\*\*\*割引：地球体験館との共通利用割引

### 【減免】

「(穂別町立)博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない(穂別町立博物館設置条例、第6条)」が「(穂別町)教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる(同条例、第7号)」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則第6条条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

(教育目的)

1) 穂別町立小・中学校及び北海道穂別高等学校の児童生徒が教育を目的として入館する場合

(研究目的)

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

(福祉目的)

3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館館報 第20号

平成14(2002)年度

発行 2003年6月

発行者 穂別町立博物館

〒054-0211

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL/FAX (01454) 5-3141

<http://www.bekkoame.ne.jp/~hobemus/>

印刷 穂別誠和学園

